

「急転直下」

●【私利私欲、最大の敵は己自信】

舛添要一氏をめぐる政治資金公私混同疑惑が明るみになり、与野党が一丸となつての辞職要求。にもかかわらず、舛添氏は「リオデジャネイロ五輪・パラリンピックを前に、このような混乱を招くのは国益にとつてもマイナスだ」などと続投を嘆願した。盗っ人猛々しいとはこういう事を言うのでしょうか。そして「都政の混乱を招きたくない。リオオリンピックまで解散や辞職について待つてほしい」と、嗚咽を漏らしながら涙ながらに延命嘆願を続けたが、当然納得する人は誰もおらず、舛添氏は都知事辞職という結末を迎えた。

そして動き出したポスト舛添。テレビやマスコミは挙（こぞ）つて立候補者の予想リストを作成しては宣伝した。

早くから「ポスト舛添」に浮上していたのは、過去の実績を信頼されて、橋下徹・前大阪市長や、東国原英夫・前宮崎県知事をはじめ、石原伸晃・経済再生担当相などの著名人が挙げられていた。他には、行政の現場を知る専門家として「待望論」が出ていた総務省の桜井俊・事務次官も取り沙汰された。自民党関係者は「今回は有名人ではなく、堅実で実務型の人材を求める声がある」な

どとコメントしていた。

そんな中であつて私が注目したのは、女性候補者の名前が挙がつていたことだった。安倍首相も、女性候補擁立に積極的とされ、小池百合子・元防衛相や、丸川珠代・環境相らの名前を挙げた。一方の民進党からは、参院選と都知事選の「両にらみ」状態の蓮舫・代表代行が、最有力とされ、与野党の「女性対決」も選枝の1つとして注目された（6月17日現在）。

●【仮面を被った悪魔】

民進党・蓮舫代表代行と云えば、思ひ出されるのが「世界一になる理由は何があるんでしょうか？二位じゃダメなんですか？」という流行語にもなった、あまりにも有名なこの一言です。あれは7年前の平成21（2009）年11月13日の事でした。思い返せば、民主党政権下に内閣府が設置した事業仕分け人として、蓮舫氏は文科省予算仕分けの際、文部科学省所管の、次世代スーパーコンピュータ（スパコン）の開発事業をロックオン。

蓮舫氏「世界一になる理由は何があるんでしょうか？二位じゃダメなんですか？一位が取れなかった場合にはどうなるんでしょうか？」

文科省「様々な競争分野において、日本が不利な立場になると理解していただきます。」

蓮舫氏「これまでの、競争の、投資した、人的・財的投資は全部ゼロになるということですか？」と、どこぞの

共産国のように、一方的な事業仕分けの結果、「緊急性が認められない」という理由で、研究開発費が事実上の凍結とも言える厳しい予算削減を決定した。

この発言について、ノーベル賞・フイルズ賞を受賞した5人の科学者が記者会見で批判し、中でも野依良治氏は「全く不見識であり、将来（蓮舫氏を含む仕分け人は）、歴史という法廷に立つ覚悟はできているのか」と述べた。また利根川進氏は「世界一である必要はないと語った人（蓮舫氏）がいるが、1位を目指さなければ2位、3位にもなれない」と続き、鳩山ポッポ由起夫（当時）首相に予算編成を行うべきだと直談判している。鳩山由紀夫氏と云えば「日本列島は日本人の為だけにあるのではない」という、バカな発言を繰り返し、いまだ日本の汚点として影を落とす輩である。そんな無能鳩山元首相が聞く耳を持つはずもなく、最適な具体案を出すでもなく、蓮舫氏率いる民主党が管轄する事業仕分け人達によって、世界トップクラスとも言える日本の粋を集めた事業開発チームは、世界の競争戦線から撤退する事を余儀なくされたのである。

●【2位ではダメ】

しかしである。事業開発チームは諦めなかった。不屈の精神でその2年後、事業仕分けの逆風を見事乗り越え、理化学研究所と富士通の共同開発チームが開発した「京（ケイ）」と名付けら

れた最新鋭スーパーコンピュータ（スパコン）が世界最高性能と認定されるに至る。そうです！7年ぶりに世界一の座に日本が返り咲きました。他の追従を許さない圧倒的な性能で、トップ500リストの中で首位を獲得したのです。そして、この受賞が日本へもたらした恩恵は計り知れません。

ちなみに、この「京」が1秒間に計算する回数は「8162兆回」。二位の中国製コンピュータは（2566兆回）というから、まさに圧倒的だ。

会見では、物議を醸した2年前の蓮舫氏の発言を受けて、詰めかけた取材陣から「やっぱり2位じゃいけないんでしょうか？」との質問に対し、理化学研究所・野依良治理事長が胸を張って「二位じゃダメなんです」と話した。

言うまでもなく、ナンバーワンを求めるからこそ良いモノが出来るのです。どの世界でもそうですが、特に科学技術の世界で2位以下は、その他大勢「はいご苦労さん」という世界です。科学技術はトップを取ったところが特許を得る事ができ、そこに需要も集まる。これほど自明なことはありません。だからこそ各国はトップ技術を開発することを目指し、国家や企業の区別なく、時にはトータルで兆単位の予算をつぎ込み、技術競争を展開しているのです。しかも日本は自然資源が極端に足りま

せん。他国に売る程あるロシアや、資源の幾つかをそこそこ自給できるアメリカや中国、小さいが石油が出ているイギリスとは違うのです。自然資源が無い国だからこそ、技術で他国に先んじようと努力する一番になるうとする努力が、日本の財源をもたらすためにどれだけ重要な事なのか…です。その為には当然開発費もかかるわけです。

●【2020東京五輪】

スポーツだってそうです。金メダルを取ろうと思うからこそ、その競技にかかわる裾野が広がる。もちろん順位にかかわらず努力する事は称賛されるべきだが、ナンバーワンを求める精神から生まれる完璧主義が、戦後日本の活力の一つであった事を忘れてはならないでしょう。貧しさの哲学によって支えられ、戦後日本の躍進の原動力となっていた集団主義、現場主義、完璧主義を、胸に刻み込みたいと思います。そして、組織のトップに立つ人間の器・考え方・資質によって、その組織の盛衰が左右されるというのは、言わずもがな事ですが、改めてその重要性を認識し直したいと思います。

日本の全人口1億2千5百万人のうち、今やその10分の1を占める東京都民（1千3百50万人）が、立候補者をシッカリ見定めて頂き、日本の雄としてプライドを示して頂きたい。そう思います。何より、東京

都知事は2020東京五輪を運営成功させなければならぬ大きな責務が待っています。

平成32（2020）年開催予定の東京オリンピックを招致したのは、あくまでも東京都であり、確実な準備を進める責任は東京都が担っています。日本の威信を懸け、組織委員会と新しい都知事とシッカリ連携を図り、大会成功のための準備を着実に進めて頂きたいというのが国民の総意でしょう。マニフェストに踊らされ、かつての民主党の様な考えを持った都知事が当選してしまう事ほど悲惨なことはありません。

民進党の蓮舫氏が東京都知事に立馬しなかったことが何よりの救いでしたが、第2第3の蓮舫氏が出馬してくる可能性も大です。国益や、競争の何たるかを理解していない人間が次期都知事に当選する事があれば、4年後開催『2020東京五輪』で、日本が金メダルを獲得できるとはとも思えませんが。なぜなら、組織のトップに立つ人間の器・考え方・資質によって、その組織の盛衰が左右されるからです。

都知事選は、早ければ7月31日にも投票が行われる見込みです。出馬する政治家の動向・言動に目を光らせると共に、見識ある政治家の出馬と、都民の清き一票に手を合わせたいと思います。

合掌 副住職 谷川寛敬

喪失体験をした子どもを支えるために

～グリーフと自尊感情の育み～

日時 平成28年 7/16 10時～12時

会場 富山市民プラザ ふれんどる

対象 子どものグリーフに関心のある方

講師 高橋聡美 教授

参加費 無料
託児 要相談



「喪失体験をした子どもを支えるために」

高橋先生の興味深いお話が聞けます。参加費無料。

とき：7月16日（土）

10時～12時

場所：富山市民プラザ

ふれんどる



ご興味のある方は、是非ご参加下さい。

ご質問のある方は、真成寺の方へお問い合わせ下さいませ。